

敦煌に吹く風

＊

日下部芳志●日下部皮膚科医院（小田原市）

去年の5月、中国の友人から、雲南省へ行こうと電話が有り、二つ返事で行く事にした。前年、河南省の旅をした折、来年は雲南省へと誘われていた。その時、敦煌もまだ行っていないとは付け加えておいた。いつもの事だが、私はチンタオまでの往復切符しか購入していない。これで中国旅行の準備は終了。後は中国の友人任せだ。泊まる先も旅程も全てあちら任せで行く。前々から、家人には、「拉致されて何処かへ連れて行かれたらおしまいね。」と言われているが、本人は能天気な、友人に全幅の信頼を置いている。しかし、今回は、到着直後から、いつもと違った。彼の都合がつかなくなり、やむなく付き人との旅になってしまった。それも、「雲南は僕と一緒にないと危険なので、敦煌にした。現地の手配はしてあるが、敦煌は今砂嵐の時季なので気を

付けて。」と。私は、敦煌にも行きたかったので、友を信じて飛行機に乗った。

黄河の蛇行を眼下に見ながら、地図とおんなじだなど、楽しんでいた。西安で乗り換えて、敦煌へ。空港へ着くと、いつものように友人の友人が迎えてくれた。役人の方とホテルへ。歓迎の食事会（内陸なのに、なぜかエビが旨かった。）を受けて、外へ。80年～90年代はブームでよく日本人が来たが、最近は左程でも無いと。敦煌の町は思っていた程広くなく、車だと10分も走れば郊外へ出てしまう。夜7時だというのに明るいので、近くの砂丘へ行っただ。

鳴沙山(写真1)と言う砂丘はゴビ砂漠の外れで、月牙泉という涸れない泉で有名だ(写真2)。ここは、観光客用に駱駝も用意してあり(写真3)、ちょっとラクして砂丘を一回りした。空はまるで白夜だ。自然と、月の沙漠の鼻歌が出る。砂丘の峰を行く駱駝の隊列は平山郁夫さんの絵を想起させた。9時頃になって、やっと暗くなり、ホテルから歩いて夜市に出掛けた。それなりに、観光客で賑わっていた。小さかったが、マンゴーが美味しかった。あの李白も愛用したという石を削り貫いて作る夜光杯(月に傾けると、緑色に輝く。)を一つ求めた。

早朝、カーテンを開けると、窓一面に、湿った泥をぶつけた模様が広がり、大きな太陽が滲んで見えた。夜中に砂嵐があったようだ。



写真1、敦煌郊外にある砂丘、鳴沙山



写真2、一時は涸れかけた鳴沙山の中の泉、月牙泉



写真3、観光客用の駱駝

今日は、お付きの人、運転手とガイドで、ゴビ砂漠を走り、玉門関、陽関門、西千仏洞等を回る。敦煌市内を出て、ひたすら河西（カセイ）回廊を走る。地平線の彼方に山々が連なり、その後ろに美しく雪を被った祁連山脈が迫る。ガイドの魏さん曰く「盆と正月と一緒に来みたいで、昨夜の砂嵐のお陰です。一年でもこんなに美しく見える事は、滅多に有りません。」と。ふと映画の「ドクトル・ジバゴ」がウクライナの雪山を汽車の窓から望むシーンを思い出した。

途中、帰路に寄るという玉門関（写真4）を過ぎ、3時間程ゴビの中を走ると、雅丹（ヤルタン）に着いた。雅丹魔鬼（ヤルタンマキ）城の跡、魔鬼とは狼の事で、砂嵐の音が、狼の遠吠えにも似て、昔の旅人に恐怖を与えていたと。今は国家地質公園になっている。中にミニバスで入ると、壮大なスケールの岩山が砂漠の中に出現した。正に異星に降り立った気分だ。その中に人が入って行くと、すぐに小さく砂粒程になってしまう。「ヤルタンに近くなるとゴビの色は黒くなる。」と昔から言われるほど、砂粒は黒っぽい。その砂礫で削られた砂岩が、孔雀や孫悟空（猿）等の奇形を成す所も面白く、トルコの Cappadocia にも似る。帰国後、顔が黒くなったと、数人に言われたが、ここでの照り返しが強かった。ゴビ砂漠では、地下核実験もやっていた様だから、今思うと、あの辺にも、ホットスポットが有ったかも知れない。

さて、帰路玉門関へ寄る。枯渇した河の畔に、砂岩を削り貫いた様に、関所跡が残る。漢時代は、ここが内と外の境。即ち、李白の詩では、都長安に春が来ても、玉門関には春風さえ届かないと。対匈奴の砦、辺境の地であった。その跡地は、徒歩で5分も回ると一周できた。ここから、陽関門、西千仏洞



写真4、玉門関

へ向かう。途中、昼御飯を食べに、オアシスの村（龍勒村）に立ち寄る。砂漠のオアシスは、目を凝らしてもなかなか見えない。遠目には、まるで地面から樹木の上方が突き出た様に見え、近づくと突然それは現れるのだ。村は地下水に恵まれ、ポプラ並木も美しい（写真5）。昔は小麦ばかり作っていたが、今はブドウ栽培が盛んで、換金性の良い葡萄酒造りが盛んだと。食事はうどんが主で、餡かけうどんみたいな物が出た。但し、やたらと面の密度が高く、腹もちが良い。これでないと、働けないそうだ。皆一様に明るく元気だった。

陽関門（南の関所）からも砂漠は広がり、ポツン



写真5、オアシスの村、龍勒村のポプラ並木



写真6、陽関門からの狼煙台



写真7、莫高窟にて

と狼煙台（焰台）の跡（写真6）があり、古めかしい荷車が砂に埋もれていた。西千仏洞（ちなみに東千仏洞は敦煌の莫高窟。）は、やはり昔の河川の岸

壁に岩を削り貫き、堂を作り、みごとな壁画や仏像が残されていた。一日が終わり、敦煌に戻ると夜市へ行き、道端で靴磨きをしてもらい（20円程でピカピカに。）、明日のメインである莫高窟の資料を買った。

翌日、莫高窟（写真7）で、前日調べておいた物を全部見たいと言うと、莫高窟ガイドの王さんは、機敏に反応してくれた。なにせ広くて、且つ有料の部屋や、一般には開放されていない部屋等があり、かなりの時間を要した。天女、菩薩、仏像、物語絵巻、皆素晴らしく、往時の人々の息吹が感じられた。無心に向き合って天女を描き、汗を流しながらこの仏像を彫っていたのだろうと。莫高窟を出てから、漢の武帝が求めた永遠の命という事をふと思った。ふっと春風が頬を撫でていった。その心地よい一瞬、永遠とは、この一瞬の事かと、勝手に納得してしまった。

帰路、西安の碑林で、宋の黄庭堅の書（拓本）を求めた。行書のそれは、心豊かに躍って、一幅の絵の様に感じられた。今年（平成24年）正月、鳴り物入りで北京故宮から上野の東京国立博物館へ、特選の200点が来た。その中に、黄庭堅の書も有った。めぐり会えたのは、幸運だった。青島の友人にめぐり会えたのも、思えば幸運である。

マウンテンゴリラ



碓 優子●いかり皮膚科クリニック（座間市）

外見と性格のギャップに驚かされる人がいますが、ゴリラのギャップは桁外れです。動物学者アラン・グドールの本には「マウンテンゴリラはほぼ完全な菜食主義者」と記されています。イギリスの動物園では、ゴリラの囲いの中に落ちて泣き叫ぶ人間の子供を宥めていたというボスゴリラの話、シカゴでも転落した3歳の男児を抱き抱え、飼育員の出入口まで運んで行った雌ゴリラの映像が話題となり、

凶暴と思っていたゴリラ、実は穏やかな優しい一面もあるようです。ゴリラは動物園で見ると、野生のゴリラを見に行くなど夢のまた夢と思っていたが、ひょんなことからルワンダで3日間のマウンテンゴリラトレッキングを経験しました。

マウンテンゴリラはその名の通り、赤道直下ながら頂上付近の気温は零下になることもある標高2,000m以上の高地に生息しています。今回訪れた

ボルカン国立公園はルワンダ、ウガンダ、コンゴ民主共和国の国境が交差するビルンガ火山帯の東部に位置し、標高3,000～4,000m級の美しい山々が連なり、その麓には豊かな熱帯林が広がっています。この地域でリサーチされている18群のマウンテンゴリラのうち8群で観察が許され、各群8名のみに入山許可が下ります。

初日、私達が目指すのはUMUBANOという名のボスが率いる13頭の群でした。まず、ガイドから「ゴリラに会ったら畏敬の気持ちを伝える、観察時間は最長60分、ゴリラとは7m以上離れる、水以外の飲食物は持ち込まない、咳やくしゃみを極力しない、ゴリラが突撃してきたり吠えたりしても慌てず、ゆっくりその場を離れる」などと指導を受けました。四駆で移動すること1時間弱でUMUBANOの棲む山の麓に到着、密猟者対策のためのライフル銃を持つレンジャー達と合流し、トレッキングが始まりました。ゴリラが目覚める早朝から木の上に躰を作る夕方まで、トラッカー達がその動きをリサーチしています。彼等からの無線で、UMUBANO達は山の中腹をゆっくり移動中とのこと、早速、人の背丈以上の高さの刺草や、生い茂る竹藪を鉋で切り開きながら、道無き道を行くレンジャーに続きます。雨期の始めで、泥濘んだ地面一面に這うように密生する植物の太い茎や根に何度か足を取られ、倒木の下を潜ったり跨いだり、時には急斜面で四つん這いになり、日頃の運動不足を心から後悔しながら、レンジャーの背中をひたすら追いつけること1時間余り、突然に歩みが止まりました。近くにゴリラ達が居るようです。ちょっとした窪地を見付け、リュックやトレッキングポールを置き、カメラだけを手に斜面を登り始めたその時、まるで私達を迎えに来たかのように、2頭の子供のゴリラが現れました。こ



筍を食べるボスの近くで遊ぶ子供達

ろころ、もこもこ、ふわふわ、さながら真っ黒な毛糸玉です。ビー玉のような真ん丸な目で私達をしばらく見回した後、くると踵を返し、「付いてきて」と言わんばかりに時々振り返りながら登って行きます。その先には、ターザンのように木から垂れた蔓にぶら下がり、無邪気に遊ぶ子供達がありました。少し後ろでは大きなシルバーバックのUMUBANOがムシャムシャと音を立てて筍を食べています。レンジャーが口を真一文字に結び、「ウウーン、ウウーン」とゴリラ達に挨拶し、60分間の観察が始まりました。

2日目に出会った27頭を率いるボスのAGASHA、3日目の22頭のボスKWITONDAも同様でしたが、ボスの近くには追いかけてこやレスリングをして無邪気に遊ぶ子供達の姿が常にありました。移動を続けるゴリラを追いながらの60分はあつという間ですが、その間にゴリラ達は様々な姿を披露してくれました。幹を撓らせ、葉を撒き散らしながら木に登るシルバーバックは、大きな体軀からは想像できないほど機敏でしたし、ドラミングの澄んだ音は周囲の空気を震わせ、木々の間に響き渡りました。ドラミングとは後肢で立ち上がり、交互に手掌で胸を叩く行動です。キングコングのように拳ではありませんでした。これは威嚇行為ではなく、自己主張をすることで無用な戦いを避けるための行動だそうです。子供達もドラミングの真似をしますが、上手に叩くことができず、「掻い繰り掻い繰り」とのめのように胸の前で両手をぐるぐると回すだけで、音が出ずに終わってしまう姿には、思わず吹き出しました。遊びに夢中の子供達は「グフグフグフ」と声を出して笑い、レスリングで負けると、相手に文句を言うかのように口を尖らせます。



お母さんのおなかの上で寛ぐ子供



目の前まで近寄ってきた2歳の男の子

大人達も口角を緩めて歯を見せながら低い声で笑います。また、ゴリラ達はしばしばお互いの目を覗き込むように見つめ合っています。多くの動物では目を合わせることは威嚇行為ですが、ゴリラは人間と同様、目でもお互いの意思や感情を伝えているそうです。子供達は目の前まで寄ってきて、私達の目を覗き込むことが何度かありました。決して良い事と思いませんが、こういう時はレンジャーも甘く、7mルールは適用されませんでした。何か話し掛けられていたのでしょうか。くりくりした目で見つめられると、「何かご用？」と思わず微笑んでしまいます。

一方、ボスの何処か哲学者を思わせる眼差しは深く厳しく、群を守るという強い使命感が漲り、ゆったりとした威厳のある動作からは、人間を超越しているような圧倒的な存在感とエネルギーを覚えました。京都大学の山極寿一教授は著書『ゴリラ』で「ゴリラは人間より劣っているのではなく、人間には到達できない重厚な気品と迫力を秘めているようにみえる」と記しています。1日60分、たった3日間で私が知り得たゴリラの生態と魅力はほんの僅かでしたが、山極教授のこの言葉は多少理解できたような気がします。改めて、絶滅させてはならないと認



鋤だけで畑を耕す人々

識しました。

シガニー・ウィーバー主演の映画『愛は霧のかなたに』のモデルとなったダイアン・フォッシーは、この地域でゴリラの研究と保護に没頭しました。残念なことに不幸な亡くなり方をしましたが、彼女の功績は計り知れず、今もその志を継いだ人々による保護活動は精力的に続けられています。大変な苦勞と努力を要しながらも、ゴリラの保護活動は着実に功を奏し、世界で700頭余りしかいない絶滅危惧種のマウンテンゴリラのうち380頭がこの地域に生息しているとのこと。しかし、今も不安定な政情が続く隣国のコンゴ民主共和国では、貧困故にゴリラを食料とし、密売目的の密猟者が今も後を絶たないそうです。また、「火山と森と湖の国」、「千の丘の国」などと称されるルワンダは、1994年、凄惨な大虐殺という歴史に残る悲しみを経て、今では「アフリカの奇跡」と言われるほど驚異的な復興を遂げています。しかし、この辺りに住む人々は今も貧しく、日々の生活に一所懸命です。山の斜面を鋤一本で耕しながら、除虫菊やじゃが芋を栽培し、畑や木炭を作るために木を伐採します。そのためにゴリラ保護区域が少しずつ狭まっているとのこと、一心に生きる人々と、昔からの暮らしを続けているゴリラとの幸福な共存を願って止みません。

おどろきモモの木クリニック・パートXVII



宮本秀明●宮本皮フ科（横浜市磯子区）

1. 会～いたかった～、キミに～、イエィッ

「あ～、痛かった、肩が～、イティッ～」という訳で五十肩になってしまったよ。「五十肩」??その年齢はとっくに超えたというのに「五十肩」とはこれいかに。若返ったのか年喰ったのか良くわからぬ。敦子や優子や友美にほだされて、下手にAKB48の「振り」の真似をするとその度に肩に激痛が走る。つらつら考えるに、AKBと言う名は「あっ、肩が、ぶっ壊れる」という意味だったのかも知れぬ。

このブツ潰れそうなクリニックも開業して7年もったが、開業後の実生活は果して改善したのだろうか。20年間使ってずたずたになった自宅リビングのカーテンを昨年買い換えた。尻の部分へたった敷布団も27年ぶりに買い換え（結婚以来だよ～ん）、同時に掛け布団も羽布団に買い換えたら、布団ってこんなに暖かいものかと知った。しかし、エアコンは家に5個設置してあるものの、相変わらず1年中スイッチ・オフのままであり、悲しいことにオン・オフの決定権は小生には無い！厳冬時の友といえはテーブルの表面が剥がれかかった炬燵と、Y電機で売れ残り現品限り¥980で入手した800Wの電気ストーブだけである。夏は夏で激暑のリビングルームは殆どヌーディストクラブと化し、扇風機の回転音だけが虚しく響く。

2. ルー、ルールルルー

「夜明けのスキヤット」と言う曲（1969年発売）を初めて聴いたとき、由紀さおりの声の清明さにも感心したが、とにかくびっくりした。なにしろ歌詞がなかなか出てこない。ルー、ルールルルー、の次はラー、ラーララーで、パー、パーパーと続いて、あー、あーあーあーあ、と悩ましい声が出て、そろそろ歌詞が出てくるかと思いきや、またルー、ルー

ルルルーであり、なかなか唄が始まらない。計ってみたら全曲3分21秒中、歌詞の部分は1分40秒しかない。過去にオリコン総合ヒットチャートで第1位を獲得した全楽曲中、もっとも歌詞の短い楽曲なんだそうである。こんなので109万枚も売り捌くとは、やはりアンパンマンの作曲家いずみたくは天才である（作詞は山上路夫）。しかし、あー、あーあーあーあ、と悩ましい声の部分は、よくPTAから文句が出なかったものだが、この部分を聴いて白川和子の「団地妻シリーズ」（古い！）を連想したのは小生くらいのものか。もし唄っていたのが由紀さおりでなく、夏木マリか辺見マリだったなら雰囲気は大いに変っていただろう。発売41年後にこの曲を含めた12曲（このうち11曲が日本語）を収録したアルバムがアメリカやカナダのチャートでもヒットして話題になったが、日本の歌謡曲を日本語で歌っているのに、1位になるとは大したものである。

3. 電力獲得大作戦

原発は必ずしも震災前までの発表ほど安全・安価ではないことは繰り返し報道されている。では他の発電にすれば事は済むかといえはこれも色々な意見がある。「火力発電による大気汚染で年間3,600人が犠牲になっている」「水力発電はダムの決壊時に膨大な数の人が死んでしまう」「太陽光発電では膨大な面積のパネル建設が必要で、建設工事の犠牲者は計り知れない」……じゃあ、どうすりゃ良いのだい。隣国の原発から電気を買うのも1つの方法だが、島国のわが国ではEU国同士のようにはいかぬ。こうなりゃ、食糧危機に瀕している某国に金をやって引き換えに原発を建設するか、あるいは某々国に交渉して〇〇領土に原発を建設し北海道に電気を引っ張るしかないかねー。

4. 宇宙飛行士、って何？

ヒコーキのパイロット、電車の運転士、船の航海士は実際に乗り物を操縦するが、テレビ中継される日本人の「宇宙飛行士」ってのは宇宙船内外で作業をしてるだけで操縦はしてないし、宇宙船はまるでNASAからのリモコンで動いているようにも見える。彼らを「宇宙飛行士」と呼ぶならばジェット機内で食事を配るスッチーだって「ジェット飛行士」ではないか。実際には宇宙飛行士 (astronaut) の業務は以下の4つに分かれている。船長 (コマンダー)、操縦手 (パイロット)、搭乗運用技術者 (ミッションスペシャリスト)、搭乗科学技術者 (ペイロードスペシャリスト) であり、本当に「宇宙飛行士」っぽいのは前者2つだけであり、日本人でこれに該当した人は今のところいないようだ。

5. シーベルトの子守唄

小生の小学生時、米ソの水爆実験合戦のため日本にも「死の灰」が降って来るという報道があり、当時「髪の毛が抜けてしまうのではないかと心配したものだ。数十年後の今、確かに小生の髪は薄くなったがこれは放射能のせいではない。

広島市では原子爆弾によって35万人中14万人が亡くなったが、奇跡の復興を遂げた今、広島市の女性の平均寿命は政令都市の中でトップ、死産率の低さでも第1位である。ある本によると原爆投下後にチェルノブイリとは違って市民が避難せず、広島市で暮らし続けたことが要因として大きいそうである。たしかに生まれ育った土地を離れて生活することは若者以外には殊の外ストレスとなる。

うちの診療所にも原発の町から避難転居してきた患者さんも家族で受診なさるが、受診の度に「横浜は福島よりも空気が乾燥しているので肌がぼろぼろになった」「早く福島に帰りたい」と声は悲痛である。それに反して一緒についてくる中学生のお子さん達は「マクドナルドもミスタードーナツにもすぐ行けるし、ゲーセンも沢山ある」とケロッとしている。確かに若年者は適応性が高そうである。

6. 考えてみれば妙ではある

(イ)「××子供クリニック」(小児科) というのは良く見かけるが、「△△大人クリニック」というのは見たこと無い。

(ロ) 人魚を扱った物語は多々あるが、胸毛が生えている男の人魚など決して現れて来ず、人魚達は皆女性である。どんな種族でもメスだけでは子孫は増えないだろうに、人魚族は無性生殖でもしてるのだろうか。また、人魚と言うからには人と魚が半々の身体なのだろうが、われわれが目にする人魚像はどういう訳か腰から上が人であるし、貧乳の人魚もなぜか見あたらない。また「腰から下が二本足で、上半身が魚の人魚」もほとんど目にしない。もしアンデルセンの「人魚姫」に顔が魚の人魚が出てきたら、確かにギョッ！とするだろう。

(ハ) 東日本大震災の被害は想像を絶する。森進一のヒット曲「港町ブルース」(1969年発表) を改めて聴いてみるとサビの部分「……みーなどとおお、宮古、釜石、気仙沼」と被害甚大だった被災地3箇所を42年前にずばり言い当てている。んーん、森進一は予言者だったのだろうか。「作詞：深津武志、補作：なかにし礼、作曲：猪俣公章」ではあるが。

7. シューカツ！その3

M氏のS嬢は大学を卒業したものの就活は×であった。名目だけの大学研究生となり4月になっても研究室にも行かず自室でくすぶっていたので、M氏は「働け！ぶらぶらしてたらキャバ嬢以下だ！」と叱責した。しかしS嬢も「胸に迫力がイマイチ足りないのでキャバ嬢はできない」と抵抗する。M氏も負けずに「ヌーブラ入れてやれ」と応酬した。しかしキャバ嬢になっても男から金を奪り取るどころか男に食いものにされそうなのでキャバクラ勤めは諦めざるを得なかった。そこで、怒りが胸に充満したM氏はS嬢の預金通帳から2万円だけを残してあとの金額は引っこ抜いてしまったので、実質一人暮らしのS嬢の食事はその日から白米と竹輪だけになった。流石にS嬢も「このままだと飢え死には必至」とやっと悟り、仕方なく駅ビルの煎餅屋の販売員のバイトに応募したが、オバさんパワーに負けたのか不採用となった。そこでC市にあるパン製造工場のバイト採用面接に出かけようとしたところ、登録していたスタッフサービスからの電話が当日入ったので行き先を180度方向転換して出向いたところ、どういう訳か採用された。これで週4日の非常勤ながら無職でもバイトでもなくなったが、給料は呆れ

るほど少なく、所謂「ワーキングプア」であった。

勤め始めても給料日までは入金は無く、通帳残金2万円は減る一方なので、S嬢の昼飯は白米無しの竹輪だけとなったがM氏は当時その事実を知らなかった。S嬢は何日も続けて昼休みに竹輪4本だけを職場の控え室で食べ続けているので、先輩の方々は不審に思い「お父さんはお仕事は何をなさってい

るの。お母さんは働いているの」と聞いてきた。「父は自営業です。母もそれを少し手伝っています」と、竹輪を頬張りながらうつむき加減に答えると先輩の方々は哀れんでくれ、おにぎりを差し入れてくれた。そればかりか数日後には焼き肉屋にも連れて行ってくれた。震災の被災地でなくとも慈悲深い人は多数いらっしゃるものだ。実にあり難い事である。

